

## 週日の説教

金 大烈 神父 2009年5月23日(土)

《司祭のために祈ってください - 御国を作るために - 》

今日読まれた福音(ヨハネ 16・23b 28)の内容は、イエス様がこの世での務めを全て果たされて、最後に弟子達に残す遺言の内容ではないかと思いました。

この福音を読んで、司祭(神父)にはたくさんの役目やしなくてはならないことがあります。それらをまとめられる一番大きい務めは何か考えてみました。結論として、出会う全ての人、できるだけたくさんの人々に、「御父が、イエス・キリストが、聖霊様が、あなたを本当に愛しています。」と伝え、その話しを聞いた人々が、「本当に神様に愛されている。」と悟れるようにすることではないかと考えてみました。

しかし、司祭も人間です。弱さも持っているし、癖になってしまった、かたくなな性格もあります。どの司祭もみんな同じだと思います。しかし、足りない心を持ちながらも司祭職が行えるのは、やはり三位一体の神様がおられるからではないかと固く信じています。それとともに必要なことは、信徒の祈りです。司祭(神父)というものは、信者の生き方の中に自分の存在の意味を探すものです。もし探せなかったら、その司祭は死んだ司祭になってしまいます。そうならないために、何よりも信者の皆様の祈りをお願いしたいです。

これは、反省する視点から申しあげたいのですが、今の日本の教会の足りない点の一つは、信徒の祈りで支えられる神父が少ないことです。これは冷静に申しあげたいことです。本当に信徒の祈りがいつも満ち溢れていれば、司祭は福音的に立派になります。社会的に立派になるという意味ではなく、司祭らしくその務めを果たそうと頑張れるということです。

皆様、それぞれの皆様が、「私は本当に愛されている。これは、今まで自分が社会的な価値観で追いかけてきた喜びとは違う。これは本当の喜びだ。」という悟りができるように導くことが司祭の役割であることは否定することが出来ないと思います。しかし、今の状況を見てみますと、信徒よりもがっかりしてやる気を失ってしまい、ただ一日一日を過ごせばよい、というような感じで生きている司祭がいるように見えます。

皆様、祈ってください。批判する力があれば、その力で司祭が正しい道を歩むように祈ってください。裁くことは何の役にも立ちません。本当に気にいらなくて、なぜそのようなやり方をするのかと、腹が立つこともあると思います。しかし、そのような心が生じた途端に思い出さなければならないことは、「本当にこの司祭のために祈らなければならない」「本当に私たちの祈りが必要だ」と意識することです。

裁くことでうまく、そしてきれいに出来上がるものは一つもありません。この教会も含めて、神様の御国が成し遂げられることを夢にして祈る姿が、何よりも必要ではないかと思います。

そのように励まされ、そして信者の祈りで支えられた司祭は、自分の命をかけるものです。自分がこのような生き方に選ばれたことを幸せに思うことになると思います。

しかし、心の病にかかっている司祭もいるでしょう。信徒よりも元気がない司祭がいる教会もあるでしょう。

皆様、司祭の一番大きい役割は、信徒が神様に愛されていることを確信できるように感じさせることです。皆様、司祭のために祈ってください。毎日の祈りの中で必ずその祈りを覚えてください。皆様の祈りがあれば、本当に美しい教会になります。これは変わらない歴史的な証言です。いろいろな聖人の後ろには、必ず絶え間なく祈ってくださった母の心と信徒の祈りがあつたのです。司祭がきちんと立ち上がれば、私たちも健康になれます。共同体も健康になれます。そういうことを意識しながら、お互いに尊敬しあいながら、御国を作るために頑張りましょう。

ありがとうございました。